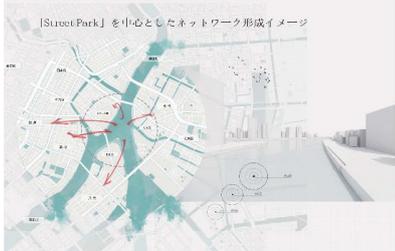
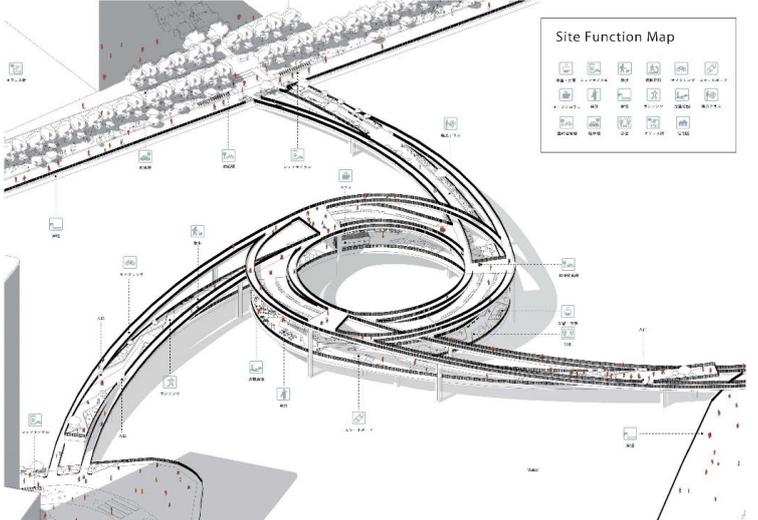


学生卒業設計制作NCF空間ディスプレイアワード受賞作品

受賞年	2022年	
受賞タイトル	奨励賞	
区分	IV. 都市ディスプレイデザイン	
フリガナ	リゴウ	
制作者名	李 豪	
フリガナ	タマビジュツダイガク カンキョウデザインガッカ	
大学・学部・学科	多摩美術大学環境デザイン学科(2022年3月卒業)	
フリガナ	ヨネヤ ヒロシ	職名
推薦者名	米谷 ひろし	教授
作品名	隅田川のストリートパーク	
概要	<p>「隅田川のストリートパーク」 ----- 文化・地域・人とのつながりを意識した空間を提供</p>  <p>川には美しい橋がたくさんありますが、その主な機能性は人々の交通の通過点である。単純な通り道ではなく通過点と目的地の両方の役割を持つ場を提案する。多様な活動を解り広げる場としての機能、立ち止まる・座る・食べる・遊ぶ等の活動が行われる。都心のゆとり空間で寛ぎのひとときを過ごす。目的地と通過点の両方の役割を持つ、川の魅力を生かして、隅田川の上に新たな東京ストリートパーク橋という構造物を設計した。</p> <p>ストリートタイプを利用した再編による機能変化のイメージ</p> <p>通行レベル → LIP リンク (通行) 高い ・隅田川の交差点で、橋を架けて、三つのエリアを繋がる</p> <p>滞在レベル → LIP プレイス (滞在) 低い ・単純な道のりというより「目的地」となるこの場所を創造する</p>  <p>[Street Park] を中心としたネットワーク形成イメージ</p>  	

制作者名	李 豪
作品名	隅田川のストリートパーク

【コンセプト解説】

永代橋近くの三又河川の橋梁施設の提案である。歩行者のみならず、昨今増えている自転車での通行を想定し、河川中央の円環部に滞留できる場所を用意することで立体的な橋梁施設となった。橋梁が都市のインフラという名目に留まらず、このような河川における公共施設の可能性や、ストリートカルチャーの醸成など、現状打破の意欲を感じる提案となっている。

ストリートパークの機能性

ストリートの役割には2つの側面があり、通行のための「リンク（通行）」機能と滞在のための「プレイス（滞在）」機能がある。

交通の場としての「リンク（通行）」

遊歩道と自転車のレーンを配置し、隅田川三つの交差点のエリアによる様々なシーンをつなぎ合わせるように立体的に構成した。サイクリングとランニングのレーンがあり、川沿いに自転車シェアリングサービスを提供する。

まちの活動・暮らしといった滞在のための「プレイス（滞在・目的地）」

オープンカフェの活用

アフターコロナ、ウイズコロナの新しい生活スタイルに合わせ、継続的に安全で快適な空間を維持できる。飲食店舗内の「密」回避の取り組みとして、橋上に客席や、カフェ小屋を設置する。隣の就労者や住民が食事することができる。雨天は仕切り板やテーブル傘を設置する。

スポーツ & リラックス

屋外で体を動かしリフレッシュしていただくために、卓球スペース、スケート場、健康器具や子ども達が利用する遊園地などを設置する。

公園 & ワークプレイスとしての生産向上性

このブロックでは芝生や緑を敷きつめつつ、訪れた人が誰でも気軽に使える「だれでもベンチ」「だれでもカウンター」など、様々な種類のくつろぎスペースを用意する。ワークプレイスとしての生産向上性の多様化する働き方の流れを汲み、都心部の緑豊かな屋外空間で働くことの生産性・快適性を高める。

